

稲雲

第 32 号

発行
広報委員会

目次

- 其の一 B 会 新会長挨拶
- 其の二 改革委員会 委員長挨拶
- 其の三 現役の活動状況
- 其の四 二〇〇八年レース日程等
- 其の五 O B 会事務局からのお知らせ

B 会 新会長挨拶



理工ポーター部 O B 会改革の必要性
O B 会長 高見 昌博

この度 O B 会長を仰せつかった昭和 42 年卒の高見です。

現在理工ポーター部現役では、さまざまな問題が発生しております。企業で言えば倒産寸前の状況です。このような状況下において、約 700 名いる O B 会としても至急に活動の活性化が必要であること決意し、会長を引き受けることとなりました。問題の解決には、先輩、同期、後輩の支援が是非とも必要であり、O B 諸兄のご理解とご支援賜りたく宜しくお願い申し上げます。このままでは、部消滅の危機といえましょう。

一方「理工スポーツ大会」は、ポーター部を中心として現在も続いており、新入生にとってスポーツを通しての初めての交流の場として、他学部にも素晴らしいイベントです。このイベントもポーター部の存続なくしては、開催が困難となります。

さて、現役の問題ですが部員の減少が深刻です。現在現役部員は、10 名ほどで専任のマネージャーも置くことができません。部活動の環境については、理工学部内に部室がなく陸上練習に支障をきたしております。まず現役部員減少の歯止めと、現役活動の支援が最優先課題と考えます。

O B 会活動の活性化については、50 周年記念会の開催をきっかけとして、財政の健全化催事の充実、組織としての会則の整備などが挙げられます。具体的解決策としてこのたび以下の委員会を設立しました。委員会により実施計画策定・実行されることとなります。

財政の健全化に当たっては、O B 諸兄にお願いすることとなりますので、ご協力頂きたく宜しくお願いします。

1. 環境整備委員会
委員長 高見 昌博 (S42)
2. 現役支援委員会
部長 高見 昌博 (S42)
3. 部室、合宿所、艇について大学と協議しながらより改善して行くことが使命。

委員長 坂本 莊太郎 (S43)
現役部員の支援として、新人勧誘、財政的支援、競技技術、就職支援他、現役部員が理工ポーター部員として継続して活動できる様支援。

3. 財政対策委員会
委員長 平野 勝彦 (S44)
O B 会費の徴収、予算、決算管理。

4. O B 会催事委員会
委員長 柴山 益男 (H2)
O B 会としてのレース参加、O B 合宿、初漕ぎ、現役レース応援他の催事を企画。

5. O B 会会則整備委員会
委員長 大枝 啓介 (S42)
O B 会の会則を見直し整備。

6. 50 周年記念委員会
委員長 原川 洋之 (S44)
2010 年度に 50 周年記念会の開催。

7. 理工ポーター部理念委員会
委員長 初島 宏明 (S42)
現役、O B 会の活動の基となる理念の作成。

8. 広報委員会
委員長 滝本 健 (S44)
改革がスタートして 5 ヶ月、緊急の課題として現役支援活動「現役新入部員の勧誘・定着・増員計画」が先日承認されました。順次、O B 諸兄にボランティアの方式での協力依頼があると思います。その際は、声を掛け合っ

て支援活動に参加お願い致します。

理工ポーター部の根幹は、授業、実験、研究を最優先しながら乗艇練習以外の練習、部の自治活動を、部室と周辺練習スペースで集中しておこなうことです。

その環境のなかで、それぞれ空いている時間を有効活用した自主練習により競技力の向上と勉学との両立をしてきました。早稲田大学理工学部を代表する学生集団であります。レースで勝つことのみを目指すのではなく、自分達の意思により、各々の個性を尊重、生かした活動により、幅広い人格に育っていくことに意味があるのです。

昭和 40 年前後早稲田大学は、理工学部を新大久保に集約移転して、思い切った豊富な実験を実施できる高度のカリキュラムを据え、社会により多くの「正しい卒業生」を送り出せる理工学部を目指したのであります。研究費が集まり補助金もトップの大学院大学に定着したかった。その遅しさを産めるモデルが、「理工ポーターの活動

であり、理工展活動や理工スポーツ大会の継続」であり、今一度その「根幹を大学と共に、取り戻さなければならぬ。」と考えます。1965 年(昭和 40 年)3 月には、理工学会(当時の荒尾副会長・日本セメント専務・稲門艇友会)から、昭和 40 年度の「理工ポーター部の理工学部内外での活動・活躍はめざましく、表彰に値する」と

言う様な名目で、難波学部長から表彰状の授与と副賞として活動支援金を受け取りました。表彰の決め手になった活動は、本文中で述べたように、「理工スポーツ大会の創設と運営ボランティア」の継続です。1987 年には、「コペンハーゲンで行われる軽量級世界選手権・エイト代表になった 早大理工ポーター・クルーとコーチ、スタッフを、コペンハーゲンに派遣しよう」と O B 有志が、44 卒原川氏を中心に精力的に、内外に呼びかけ、活動した。理工学部からも「生協カレール」を目玉にした、協力が得られた。

O B の活動は、多岐(広告会社にも)わたって行われ、それなりに成果は上がってきた。一方、学内のキャンペーンを先生方は見ておられ、理工工学部に働きかけをされ、さらに 本部の教授会にも呼びかけ「こんなこと理工工学部で 2 度と起こらない、ぜひ行かせてあげよう」と盛り上がったそうです。44 卒塚田氏に担がれ、別件で理工工学部と折衝していた高見が、理工工学部事務局長から呼ばれ、前述の「別件ですが、あけて下さい」とさらさら「理工工学部の先生 250 人足りないでしょうから、本学の先生 550 人が募金してくれませんか。是非行かせてやってく下さい」とも感激しました。結果は、ご存知の通り 1600 万円集まりました。遠征した余剰金は 300 万円あまりでしたので、直ちに目録を付け寄付を申し出ましたが、受け取るどころか「O B を含めた活動に生かして下さい。」と理工工学部からの「艘目のエイトを贈られたのです。

この様に、理工ポーター部は、早稲田大学理工工学部を代表するサークルであり、内外からその存在を評価されてきました。現役が部活動に困難をきたしている現在 O B 会として、そのままにしておくわけにはいきません。皆様よりご支援、ご鞭撻頂きたく宜しくお願い申し上げます。

〆〆〆〆〆 現役の活動状況

部員数が減少し、クラブの運営が厳しくなっています。現在、部の存亡をかけて新人勧誘を精力的に実施中。熱いご支援を。

院 2 年生 (1 名)
木原 康之 新人コーチ

院 1 年生 (6 名)
黒田 広樹 漕手
佐々木 智也 漕手
長 大介 男子マネージャー
樋口 瑛介 漕手
平山 義大 漕手 (コックス)
吉武 佑祐 新人コーチ

4 年生 (2 名)
石井 正将 漕手
井上 洋輔 漕手



O B 会会則整備委員会
委員長 大枝 啓介 (S42)

昭和 42 年(1967 年)卒、委員長の大枝です。クラブの草創に参加して以来、50 年弱になるつもりです。ポーター部と O B 会が、山あり谷ありしつつも今も継続して、O B 仲間と交際を続けられる、嬉しい限りです。その伝統ある組織なのに O B 会規約が制定されたのは 2007 年です。制定のニーズから昭和 57 年には案が作られましたが、実際に結実したのは、白田前会長他 O B の努力のおかげです。私はこの規約を尊重し、育てたいと思います。墨守せず、環境変化に応じさせつつも、この規約が O B 会運営の約束事として機能し、ひいては会発展に寄与すればと念じています。



広報委員会
委員長 滝本 健 (S44)

〆〆〆〆〆 改革委員会 委員長挨拶

3 月末現在の学部 1 ～ 4 年生の部員数は驚く無かれ何と 10 人余り！
この数だから財政的にも破綻状態で部員の負担も大きい。現役の当面の最重要課題は 1) 新人勧誘活動の充実と 2) 新入部員の指導体制確立による部員増強だ。

畢竟、我が委員会の課題も部員増強と財政の支援となる。現役の主体性を大切にしながらこのミッションを果たしたい。700 人近い O B 諸兄のご理解とご支援を願う次第です。

〆〆〆〆〆 現役支援委員会

委員長 坂本 莊太郎 (S43)

〆〆〆〆〆 改革委員会 委員長挨拶

〆〆〆〆〆 委員長挨拶

〆〆〆〆〆 委員長挨拶

3年生(5名)
 大橋 慶太郎 男子マネージャー
 中川 康司 漕手
 赤野 由布子 女子マネージャー(日本女子大)
 笠原 麻美 女子マネージャー(日本女子大)
 木村 結実 女子マネージャー(日本女子大)

2年生(4名)
 野口 幸嗣 漕手
 林 勇輝 漕手
 原 馨 漕手
 松元 貴志 男子マネージャー

〓〓〓〓 二〇〇九年レース日程等 〓〓〓〓

2009年のレース予定等			
4月	4日～5日 19日	お花見レガッタ 早慶レガッタ	戸田ボートコース 隅田川
5月	2日～4日 22日～24日	戸田レガッタ 全日本軽量級選手権	戸田ボートコース 戸田ボートコース
6月	6日～7日 27日	東日本大学選手権 関東理工系レガッタ	戸田ボートコース 戸田ボートコース
8月	8日～9日 20日～23日	東日本選手権 全日本大学選手権	戸田ボートコース 戸田ボートコース
9月	10日～13日	全日本選手権	戸田ボートコース
10月	3日～4日 17日～19日	東日本新人 全日本新人選手権	戸田ボートコース 戸田ボートコース
11月	3日	OB総会	大隈会館

右表には理工ボート部の出漕が未定であるレースも含まれています。詳細はOB会事務局等へお問い合わせ下さい。

〓〓〓〓 OB会事務局からのお知らせ 〓〓〓〓

【OB会員ニュース速報】

昭和47年卒の佐々木則夫氏が、皆様へ存知のように「東芝次期社長」に内定されました。今後の御活躍を期待し、エールを送りたいと思います。

【メールマガジン発行のお知らせ】

電子メールによるメールマガジンを発行しています。隔月発行で、次号は4月末発行を予定しています。届いていない方は、事務局でメールアドレスが把握出来ていないと思われる。事務局までお知らせください。
 E-mailアドレスは
 inagumo@nu.biglobe.ne.jp

【OB会費自動引き落とし加入のお願い】

事務局ではOB会費の納入にご賛同いただける方に、銀行口座からの自動引き落としをお願いしております。ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。
 自動引き落としに関する説明は
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~heksui/banking.html>
 に掲載しております。

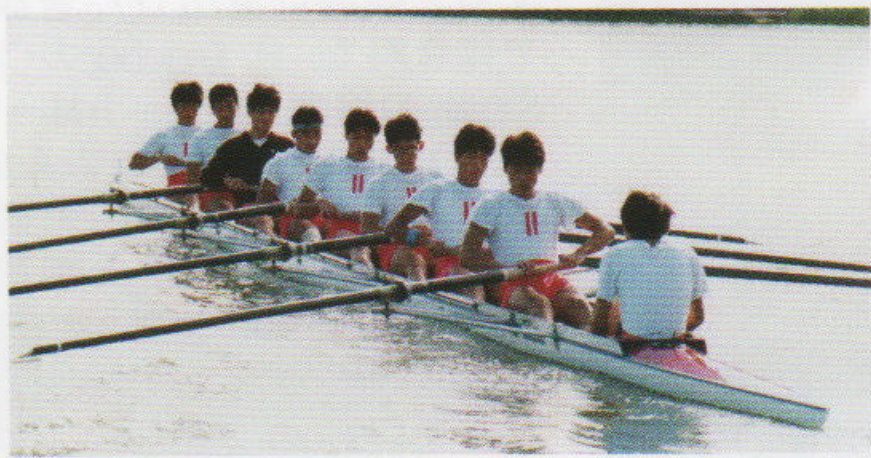
また、自動引き落としにご参加されない方の会費お振込みも歓迎いたします。一〇一〇万円にて受け付けておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。
 OB会費振込先

東京三菱UFJ銀行 高田馬場支店
 店番号 053
 口座番号 0542113
 早大理工ボート部OB会
 (ソウダイリコウボート部 オウビイカイ)

【ホームページのお知らせ】

理工漕艇部OB会では現役と連携して新しいインターネットのホームページを構築中です。ご期待ください。それまでの既存ホームページのアドレスは、
<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~heksui/>
 です。稲雲のバックナンバーを置いてありますので、ご利用下さい。

1987年



74.



75.

理工ボート部

軽量級漕艇で全国優勝し、1987年、コペンハーゲンで開催された「軽量級漕艇世界選手権大会」に出場した理工ボート部。上はレースに向かう栗原主将以下のクルー。下は艇庫前の部長林郁彦教授を中心とした代表団。派遣には大学、OBはもちろん、全理工が一丸となって遠征費等を支援した。

理工100年史の写真集に左記の写真が載っています。